

令和元年度の学校評価目標

- 1 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- 2 普通科とシステム科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- 3 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- 4 一貫コースを中心とした高大連携教育
- 5 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- 6 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 一般入試の志願者を増やし、募集定員を確保する (2) 女子生徒と普通科(特進・一貫)コースの志願者増をめざす (3) 中部大学との「高大一貫教育」を含めて、学校のブランド力の向上をはかる (4) 2科6コースの特徴を生かした「個性を生かす教育」を他分掌と連携し、具体的に発信する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地元重点地区を軸に、丁寧な募集活動を継続する。また、各科各コースの募集のあり方を検討し、学校評価の向上をめざす。特に、学校見学会は在校生を中心に、本校の魅力を伝える場として今後も活用していく。 (2) 女子生徒の活躍する進路実績等のアピールポイント等の情報をより積極的に発信し、中学生・保護者に伝えていく。 (3) 高大一貫教育では、広報すべき内容を具体的な情報化し整理する。特に、他私学との比較を含め、本校の優位性を広くアピールする。 (4) 新課程を見据えて、2科6コースの特色を明確化し発信する。特進コースの募集については、少人数教育やICT教育、進路実績等の広報をまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校見学会実行委員は年間の係として、可能な限り、年度当初に選出し、生徒実行委員主体の運営を工夫しながら、来場者の満足度の向上を図る。また、チラシ・ポスターが大変好評なので継続する。 (2) 進路指導部などと協力し、具体的な進路状況等を含めた学校評価の向上をめざす。 (3) 在校生と保護者の満足度は学校評価に直結している。各分掌と学年の協力を得て、本校の良さを外部に広く発信する活動を行っていく。 (4) スクールバスの改編や各種特待生制度など、中長期的な視点を持ちつつ、必要な検討をすすめる。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 避難訓練の充実 (2) 朝読書の充実 (3) 行事、式典の充実 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 避難経路及び校内危険箇所等の点検を行い、避難訓練・実際の災害時に、全教員が共通理解を持ち、対応できる体制を作る。 (2) 2回の読書週間で、放送をかけるだけではなく、内容の充実を検討する。 (3) 行事(修学旅行、オリエンテーション、PTA総会など)について改訂してきたことが、定着しつつある。本年は、他分掌、学年会ともしっかりと連携を取りより良いものにする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒とともに全教員が理解できるよう事前指導を充実させる。 (2) 自分で本を持参させる。遅刻者の対応についても検討する。読書週間の内容の見直しを図る。 (3) 特に、卒業式については今後生徒の増加に伴い、入場者も含め早期に検討する。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領の内容をふまえた生徒の自発的探究を促す教育課程への移行(準備) (2) ICT教育対応に向けての準備検討 (3) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新教育課程作成のための情報収集・シラバスの改訂(SDGsの位置づけにより授業内容をより明確化) ・17のSDGs 別教育課程表の作成(17のアイコンごとの全教科の関連単元のまとめ) ・ESDカレンダーの作成(SDGsの視覚化) ・各教科「ESD推奨科目」のICT機器を活用した授業の公開 ・教育課程(総合的な学習の時間)の見直し(普通科1年次に続き本年度は2年次の見直しをする。システム科においても2年次を見直し、3年生で行う課題研究に繋げる。 (2) 1年生普通科特進コースと機械電気システム科1年生のiPad個人購入、Wi-Fiアクセスポイントの増設(充実)。ICT機器(特にiPad)を使った授業のための勉強会を実施。 (3) 情報部、進路指導部等との協力、調整を行う。情報部による説明会を実施。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新教育課程についてはできる限り、情報集に努め、各教科の研究会等で得た情報を教育課程委員会等で共有し確実に対応する。 (2) 総合的な学習・探究の時間を中心に、探究活動としてiPadやパソコン室等の利用とともに、ICT機器に依存しない探究活動を考える。 (3) 新校務システムについては、情報部、進路指導部と協力、調整を行引き続き説明会を実施し、確実に運用できるようにする。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導を徹底し、規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナー向上と交通安全に努める (3) いじめ防止とSNS利用に関するモラルの向上を図る (4) 携帯電話の取り扱いの徹底を図る (5) 薬物乱用防止についての指導を行う 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全校集会、学年集会を通して身だしなみの指導を徹底する。問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (2) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、昨年度より学校向けネットパトロール「スクールガーディアン」を導入したため、関係者との連携をより一層強化する。いじめによる問題行動を防ぐため、迅速にかつ細やかな指導姿勢で臨む。 (4) 校内での携帯電話取り扱いルールを徹底を行う。 (5) 薬物乱用の講習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 問題行動を未然に防ぐために、日頃から生活規律向上のための意識づけを図る。 (2) PTAによる街頭指導をサポートする。各種講習会をはじめとする交通安全指導の充実を図る。 (3) 生徒に関する問題点を関係者で共有し、初期対応の迅速化を図る。いじめの早期発見と早期指導を行うために、校内連携を迅速に行う。 (4) 携帯電話の校内持ち込みを条件付きで認めて3年目になり、再度ルールの徹底を図る。教員間の指導に対する温度差をなくし、学年運営委員会や学年会での連携を密にする。 (5) 薬物乱用の講習会を行う。
特活部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会執行部の活性化、全員参加型の生徒会行事の継承により、実施内容の質と魅力を高める (2) 部活動を物心両面で支援する (3) 教育相談を一層充実させ学年・分掌との連携を図る 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会役員の選挙公約実行のための取組を補助する。創立80周年に合わせた企画を検討実施する。夏季ボランティアの参加者を増やす。 (2) 部活表彰マニュアルの作成をする。推進費配分を年度初めに行う。また、徴収額の見直しを検討する。 (3) スクールカウンセラーと学年会の連携した 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会役員の選挙公約を教員の助言・援助で実現できるよう努める。一高祭初日に生徒会の企画として発表を早期計画する。1・2年生に対して夏季ボランティアの積極的に参加の呼びかけをする。 (2) 部活動表彰時の手順を関係部署と調整しながら作成する。

		教育懇談会をより充実させるとともに、回数を増やしていく。また、各担任とより連絡を密にして、生徒相談が必要な生徒への早期に生徒相談にあたる。	推進費の配分を年度末に小委員会で行うとともに、徴収額の見直しを検討する。 (3) 教育懇談会教員が参加しやすい時期や時間を検討する。教育相談の必要な生徒に対して、早期に発見・対応する。
情報部	(1) 校務システムの有効的な運用方法の確立 (2) ICT機器を活用した授業展開の検討 (3) ICT教育の具体的な取組みに関わる無線ネットワークシステムの構築検討 (4) 本校ホームページの制作・運営・管理方法を検討	(1) 校務システム各機能の有効的な利用方法を確立させる。 (2) iPadの活用方法について検討・研究するとともに、講習会などを利用し情報提供する。 (3) 無線LAN設備の生徒利用が増加することを考慮したネットワーク設備を検討する。 (4) ホームページ制作運営管理者を設け、本校情報発信コンテンツの見直しおよび制作を行う。	(1) 各機能を整理し、利用できる機能の明確化と、使用方法の解説書を閲覧可能にする。情報配信メールは、別システムを利用することも検討する。 (2) 据付型電子黒板はさらに15台設置予定。iPad個人購入は、さらに、普通科一貫・進学アドバンスコースについて検討し準備する。電子黒板およびiPadの授業への活用方法について情報提供し、適宜講習会を計画する。 (3) 無線LAN(Wi-Fi)は、さらに9台設置する予定。そこで、ネットワーク回線容量・パフォーマンスを考慮し、無線ネットワークが安定的に利用できるような設備増強を計画する。また、セキュリティーの観点から「いつ」「誰が」「どこから」接続したかが識別できるような認証システムを構築する。 (4) ホームページ情報収集を各部署の協力を得ながら積極的に行い、情報コンテンツの充実を図る。発信情報の内容および情報の見せ方についても十分検討する。
進路指導部	(1) 中部大学入学者学年45%を実現させる。一方で、ミスマッチ、学力不足による中途退学の防止に努める (2) 国公立大学合格者10名を実現させる (3) 入試改革への準備を進める (4) 本人・担任・保護者との連携を強化し、企業研究の徹底に努め、一次合格率90%以上を目指す。内定後の指導を充実させる	(1) ガイダンス、模擬授業などの高大連携企画を充実させる。実力テストの実施時期変更、進学補習の内容改善により、学習に対する意識を維持、向上させる。 (2) 自主学習や探求学習において、リクルートのスタディサプリを利用し、学力向上を図る。特進コース以外の生徒に対する指導を充実させる。 (3) 「共通テスト」への対策、e-Portfolioへの対応を進める。「学びの基礎診断」を導入する。 (4) 職業別進路ガイダンスの実施を検討する。	(1)(2) 各担任や、普通科・機械電気システム科と定期的に情報共有を行える機会を具体的に設ける。 (3) 情報の収集と共有化に努める。 (4) 情報交換・連絡を密に行う。
普通科	(1) 探究活動、ICT利用などの新たな学習指導方法を確立させる (2) 生徒の進路希望にみあう学力養成と、進路選択のミスマッチを減らす指導を行う (3) コースの違いが明確にわかる指導体制を構築する	(1) 探究学習では、30年度の反省を踏まえた年間計画を作成する。また、2020年度以降の3年生の総合的な学習の時間の内容を検討する。ICTは関連部署と連携を取りながら利用を推進していく。 (2) 自習室は本年度と同様の実施をする。英単語テストは工夫をしながら継続実施する。学習量調査は実態把握だけでなく分析をして指導に活かせるようにする。進路指導では生徒への情報発信だけでなく、生徒が自ら調べる指導を行う。 (3) 英単語テストの進行、合同HRの実施、定期考査のコース別成績優秀者発表等のコース別での実施を実施する。コースの特徴を出すために、同コースの教員間の共通理解を深め、到達目標、授業内容、定期考査の出題等を工夫する。	(1) 探究学習では担当教員間で情報交換をし指導者のスキルを向上させる。ICT利用に関しては教科会等で非常勤講師へ情報伝達をする。 (2) 学力養成は日々の指導の積み重ねが必要であり、生徒に繰り返し意義を伝えていく。 (3) 各コースの特色と目標を意識しつつ、日々の指導に当たる。
機械電気システム科	(1) 資格・検定の合格者数を増やすなど、生徒の専門的能力の向上を図る (2) 地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る (3) 機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る (4) 専門課程を学ぶ意義を理解させるとともに、進路意識の高揚を図る	(1) ジュニアマイスター顕彰の取得率増加や社会的に高く評価されている試験の合格実績の向上。 (2) 各種競技会、地域イベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける。 (3) 学校法人の行動計画、SPH申請など、システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。 (4) 教員の資質向上のための研修を行い、授業の充実を図る。	(1) 資格試験を考慮した授業内容の工夫や、授業効率の工夫、設備の充実を図る。 (2) 各種競技会の早期情報収集を図り、研究や準備を行う。 (3) 本校の取組を明確にするとともに、次回の申請の準備を進める。大学、幸友会及び一高会との連携の強化を図り、地域との協働についても検討する。2年次の総合的な学習の時間においては、3年生の課題研究に必要な「知の探究」の基礎知識の習得に加え、修学旅行(沖縄)の探究テーマとして、システム科の特色を生かした設定と探究活動を行う。 (4) ICT機器を活用した学習システムを構築し、生徒の基礎学力の向上及び授業の充実を図る。平成30年度生徒用タブレット40台、平成31年度入学生から全員購入の予定で準備する。
一年	(1) 高校生としての自覚を持たせる指導を学年全体とし	(1) 新入生オリエンテーションでルールを確認し、以後の学年集会やホームルームの中でモラ	(1) 学年内での情報共有を密にし、集会時の講話の輪番やST交代など各教員がより多く

生	<p>て行う</p> <p>(2) 学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る指導を行う</p> <p>(3) 多くの経験を積ませる中で、将来の進路をしっかりと考える指導を行う</p>	<p>ルやマナーを指導し続け個々に考えさせることにより、一人一人に自覚を持たせていく。</p> <p>(2) 授業規律の確立と自学力の向上を目指す。各種検定受検とスタディサプリ・クラッシーの積極的な利用を促し、結果を出した生徒を賞賛することにより多くの生徒への波及を心掛ける。</p> <p>(3) 様々な活動の中で、心の成長だけでなく将来の進路選択に繋がるような成功体験ができるように指導・支援する。</p>	<p>の生徒と関わる機会を設けることにより温度差の無い学年としての指導を心掛ける。</p> <p>(2) 授業内での問題は早期発見・早期指導を行う中で全体への規律の定着を図る。学習や資格取得の意義と必要性を唱え続け理解させることにより、多くの生徒に成果を上げさせる。</p> <p>(3) 部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、ESD活動などに積極的に取り組ませるだけでなく、振り返りや考えることをしっかりとさせて生徒の成長に寄与する。</p>
一 年 生	<p>(1) 併設校希望者の増加と意識付けを図る</p> <p>(2) 基礎学力を定着させ、進路目標を明確化する</p> <p>(3) 身だしなみ・携帯電話の取り扱い指導の重点強化は継続し、指導面の連携強化を図る</p> <p>(4) スタディサプリ、Classi、を活用しポートフォリオや家庭学習、課外活動に積極的に取り組ませる</p>	<p>(1) オープンキャンパス、施設見学会、新たに2年生対象の出張授業の実施、進路別説明会を企画し、保護者に対し併設校推薦の理解と意識付けを図る。</p> <p>(2) コース別で将来のビジョンが描けるような取り組みを実施する。そのために校外模試・スタディサプリ、オープンキャンパスや学校見学会、就職希望者には企業見学を導入し目標の明確化を図る。</p> <p>(3) 通学時からの身だしなみについて意識付けを集会等利用しながら行う。携帯電話の取り扱いは使用時間の徹底、利用目的、使用時のマナーとモラルの向上を関連分掌や他学年と連携を図り取り組む。</p> <p>(4) 進路調査や活動後のアンケート、部活動やボランティア等の課外活動を積極的にスタディサプリや Classi を利用し保存する。また、スタディサプリを利用して、家庭学習や長期休暇中の宿題の補助教材として利用し、基礎学力の向上に努める。</p>	<p>(1) 希望学部とのミスマッチを防ぐために見学会や説明会を活用する。</p> <p>(2) 校外模試・オープンキャンパス等の実施、就職希望者には企業見学を導入する。</p> <p>(3) 身だしなみ・携帯電話の取り扱いを重点指導とし、教員間で指導の温度差が生じないように、学年団と関連分掌と連携を図りながら取り組む。</p> <p>(4) 部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、ESD活動など積極的に参加させ取り組むことを促す。</p>
三 年 生	<p>(1) 本校の模範学年としての自覚を持ちルールを守りモラルを高める行動を実践</p> <p>(2) 併設校推薦者 150 名 国公立合格者 10 名 大手企業内定者 20 名</p> <p>(3) 身だしなみ・携帯電話の取り扱い指導の普及</p> <p>(4) 特別問題行動ゼロを目指す</p>	<p>(1) 日頃から基本的な生活規律・学習規律を守り実践することを心掛ける。モラル向上を目的とした講演会等を開催し理解を深める。</p> <p>(2) 成績上位者にスタディサプリの導入しレベルアップを図る。併設校推薦希望者にも同様に検討していく。就職希望者は学力とコミュニケーション能力向上を目指し個別指導を強化する。</p> <p>(3) 開始年度から引き続き継続。関連分掌・他学年とも協力し取り組む。</p> <p>(4) 卒業まで気の緩まない学校生活を送る指導を例年以上に重要視する。問題行動等は未然に迅速に対応する。</p>	<p>(1) 共通認識のもとに、日頃から生徒に呼びかけるとともに、必要に応じて学年集会等で徹底する。</p> <p>(2) スタディサプリの実施について、レベルアップを図れる取り組みの仕方をさせる。就職希望者には、情報の提供をできるだけ多くし、進路先決定に役立てる。</p> <p>(3) 関連分掌・他学年とも協力し取り組む。</p> <p>(1) 生徒の様子や状況の把握に留意し、進路決定後の生活についても、先を考えた生活を意識させる。</p>